豊中市伊丹市クリーンランド環境学習基本方針

環境学習テーマ:~くらしを見つめて、あしたを変える~

はじめに

背景及び趣旨

クリーンランドにおいては、平成24年度(2012年度)からリサイクルプラザ(愛 称:豊中伊丹スリーR・センター)の稼働に併せて、両市市民へのパブリックコメントに よる意見聴取や環境分野の有識者による活発な議論を行った経緯を踏まえ、さらなる3R の推進を図るための環境学習を展開していく。そこで、環境に対する意識を高め、環境に 配慮した行動の考え方、方向性を示すことを目的に「豊中市伊丹市クリーンランド環境学 習基本方針」を策定する。

第1章 環境学習をめぐる状況

両市の取組み

≪豊中市≫

- 平成 7年(1995年)10月「豊中市環境基本条例」制定
- 平成11年(1999年)3月「豊中市環境基本計画」策定
- 平成 23 年(2011 年) 2月 「第 2 次豊中市環境基本計画」策定
- ・平成30年(2018年)3月「第3次豊中環境基本計画」策定(令和5年3月改定)

≪伊丹市≫

- 平成 15年(2003年)3月 「伊丹市環境基本条例」制定
- 平成 16年(2004年)3月「伊丹市環境基本計画」策定
- 平成23年(2011年)3月「伊丹市環境基本計画(第2次)」策定
- 令和 3年(2021年)3月「伊丹市環境基本計画(第3次)」策定 (令和5年3月及び令和7年3月改定)

クリーンランドの取組み

「ごみ処理」という市民生活の基盤を支える業務を通して市民とのつながりを深めて いくことが大切であるとの視点から、共に学び、共に育つ関係を築き上げるよう努めて いる。その中で市民の「ごみ処理」に対する理解度を高め、①ごみ処理を通して3Rを 推進する、②様々なイベントにおいて市民との交流を深める、③市民の視点に立ち市民 との協働関係を深めるなどの環境啓発活動に取組んでいる。

今後は

深い知識を持つ市民・NPOとともに協働の理念に基づき、豊中市及び伊丹市における 環境にやさしいまちづくりを通した循環型社会形成の推進に貢献するために、豊中伊丹 スリーR・センターにおいて独自の環境学習機能を提供することにより、『循環型社会推 進の拠点』となることを推進している。

【令和6年度から8年度までの目標値】

- ・施設見学者数・・・・毎年度 8,000 人以上
- ・出前講座参加者数・・・毎年度 6,000 人以上
- ・リユース事業・・・・・毎年度 130 点以上の譲渡

第2章 環境学習のめざす方向

クリーンランドの役割

ごみ問題を基軸とした環境学習。とりわけ「分別」の重要性に「気づき」、自らのライフスタイルを変革させる「行動」に結び付け るための"学習の場"となることをめざす。

豊中市

○企業・団体・地域・家庭など身近 な場で、多様な世代を対象にし た、幅広いテーマによる環境学習 を促進・支援。

○幼児期から生涯を通じて実践して いく基礎を培うため、こども園・ 保育所等や学校での環境学習を促 進•支援。

クリーンランド

◎ごみ問題を基軸とした環境学習

- ・ 分別の重要性への「気づき」
- 自らのライフスタイルを変革させる「行



★環境にやさしい行動を市民が自ら 実践できるよう支援する。

両市環境学習へのアプローチ

伊丹市

○地球環境保全を視野に入れた環境 学習を促進。(廃棄物、地球温暖 化、水の循環、自然保護など)

○親子がともに環境について学習す る機会の提供を通じて、子どもた ちの環境を考え行動する芽を育

第3章 環境学習の進め方

施設見学を起点とした取組み

①クリーンランドの役割を知る。



②ごみ処理にかかる手間や 問題に気づく。



③分別することで"ごみ"が どう変化するかを考える。



④日常生活における環境に やさしい行動の実践

施設見学以外の取組み

クリーンランドから両市市域への展開

リユースコーナーの実施

出前講座の実施

市民参加型イベントの 開催•出展

市民参加による ワークショップの開催

点検・評価 「市民の行動がどのくらい 変わったか」という評価指標 プログラム 年度計画 の実施 サイクル 見直し・ 点検・評価 検証 環境学習推進会議による 検証・評価